

飯田市議との懇談会

2011年1月11日（火）

趣旨説明

熊谷 懇談会が開かれるに至った経緯 南信州地域全体に視野を広げ、地域全体の将来像 共同で勉強会 意見交換会 若手議員の会を母体 ゆめ未来南信州 26名市町村議員7月12月勉強会 リニアについての意見交換会 推進一色になっているが、大鹿村では事情が違う 工事に対する疑問がある現状 100年先を育む会 勉強会に参加 自分も参加
夢未来南信州 原和世議員から直接会って生の声を聞きたいとのこと 育む会でも広く声掛け 大きなプロジェクト 国の命運を左右する重要な問題

活動報告

原(勉) 委員長 国交省の小委員会でとりまとめ 昭和48年に中央新幹線基本計画翌年同盟会が飯伊地域で結成 本日、長野県の総会 飯田下伊那においては南信州広域連合で議論 今まではBルート、Cルートという議論だったが、中間とりまとめの中で南アルプスルートというとりまとめ 具体的になっていく釜沢のボーリング調査の地 より具体的に現実の問題として 危惧等も含めて、それぞれの住民の立場 いろいろな立場の人がいるのは当然 皆さんの率直なご意見 陳情を受けるのではない われわれの持っている情報も開示 会派みらいという一つの政策集団 参考にしたい

山根 3人子ども村で子育て 学童 介護 育む会は代表は決まっていなかったが活動している 資料 11月初めに立ち上げ 11月9日 村長と対話 11月16日第1回リニア学習会 参加者12名。11月21日 学習会。内容は1回と同じ。地質の説明。8名。12月14日、村長と2回目の話。3回の学習会。21名の参加。大鹿村の地質、地形。新年会 会の活動の話し合い。
会の理念 大鹿でどう生きるかを模索 共に未来を育んでいく リニア新幹線建設への見解はさまざまだが、共通していえることは自分の生活と無関係ではない JR東海と国、県だけで話が進められているように感じられる 村民にはあまり説明がなされないことに疑問。ルート問題ばかり採り上げられるが、そもそもリニアそのものはメリットデメリット含めて知る権利がある 話し合い、情報提供の場を提供。村内、村外へアンケート。地質、地形、電磁波、沿線住民の生活はどう変化するか 経済効果も考え得る範囲で 賛成反対さまざまな意見 村民同士の分断は避けたい リニアに頼らない大鹿の未来を考えたい

井坪 報道機関 会の趣旨 飯田市議会を代表して来たわけではない 会派みらいが自分たちの政務調査活動の一環 住民との意見交換 議会の立場 推進をする事業体ではない 住民の意見を酌んでそれをどう反映させるかという立場

青木 青木香糸 父が畜産 今は養豚と加工品 介護の仕事もパートタイム 構想 農家レストラン 都会から人を呼ぶ リニアのことで重なる部分 住んでいる地域 青木の奥にリニアが出てくる 個人的な立場でいうと、私の考えている場所にダンプが毎日走る 土砂類をどこに捨てるのかという心配 村内の経済効果もあるが、飯田市の経済がどうなっていくのかが不安 周りの市町村は飯田で潤っている 飯田市が元気でいてくれないと周りはずいぶん衰退する一方

中野 Iターンで移住 農業のかたわら、おじいちゃん、おばあちゃんたちのお手伝い アルバイトとしてやっている。おじいちゃん、おばあちゃんたちは力がなくなってきているので、重い物を持ったり、雨樋の掃除など、生活に密着したアルバイト 11月の勉強会に参加。南アルプスは大きな水瓶 そこに穴を開けることは、今水がわいているところも出なくなる可能性があるという不安 農業をやっているのも水は不安 もともと住んでいる人 仕事に行くと自分たちで食べる分は自分の畑で野菜や米を作っている。山から引いてくる水が多い。そういう水がなくなってしまう可能性があることは、高齢のおじいちゃん、おばあちゃんたちの食べ物を作る水がなくなってしまうと、村にもいられない。子どもたちも不安 これからIターンで村に住みたい人たちにもマイナス要素。水瓶で、水のこと、可能性がある以上、賛成できない。

土屋 NPO 法人 あんじゃねっと 32年前に入村。去年も若い人たちが何組か入村。私たちのときと同じ 自然の中で耕しながら暮らしたい 世の中の見方が町にいたときと変わる お金では買えないものがあるということ 大鹿に来て、そこが見える 来る人もそこに魅力 リニアの話 夢の新幹線 地域の活性化にもつながるという話 今の時代、そんなにうまい話はない そんなにいいことばかりがあるのだろうか 飛行機も新幹線も高速道路もある だんだん直していかなければいけない時代 リサイクル 循環型社会 お金ばかりで自殺者が日本人は多い パソコンや携帯 情報が得られる時代 リニアの利用者がそれだけいるのか どれだけ経済効果があるのか疑問 まして捨て土は大鹿に積まれるのか、水は 電磁波は そんなにうまい話があるのかというのが第一印象 山梨の方にも行きたい 飯田の活性化への夢をお話ししていた

きたい 宅老所 お年寄りの言葉 便利すぎるのも

平瀬 温泉宿 山塩館 平瀬 何が一体どうなっているのかということ自体が分からない 自分なりの解釈の中で考えられる危惧 インフラ整備にこれ以上の進歩が必要なのか それに対する代償はかなり大きい 中央新幹線 都市間を結ぶスピードが速くなる 都市にいる人の利便性 犠牲になる自然は考えられていない 温泉宿 塩湯はどこからわいているかわからない 電気や水は圧の低い方に流れる 水源を掘った場合 鹿塩温泉の灯がなくなるのではないかという危惧 環境調査 公平な結果が配信されるかどうかというのが心配 環境アセス 温泉 地熱発電の調査 第三者機関も信用できない 環境変化 リニア新幹線の波動 共振、共鳴、電磁波がどのエリアに出て、確実に理解してやってもらえるのか 野生動物 鳥倉林道 数年前に落石事故 落石防止ネット 鳥類を観察 鳥類が半分ぐらいに減っている ちょっとした工作物でもそれだけ生態系への影響がある 目に見えない電磁波や波動 計り知れない影響 鳥類 伝書鳩、磁界で方向を定めて飛んでいく 近年回収率が格段に下がっている 携帯電話の電波塔など電磁波に影響されて回帰率が下がっている なぜ村を挙げて地域的に推進していくかという理由が分からない 現状が分からないのになぜ同調して賛同していくのか分からない 民主的な過程を経て考えてほしい

河本 生まれは東京 北海道にしばらくいて アメリカに5年 大鹿に26年 20歳ぐらいからの大きなテーマ 地球と人間の関係 地質の学芸員 その流れ 東海地域若手議員の会 南アルプスジオパークについての話をした。地球の中で南アルプスの持っている地質的意義 テーブルに座っているわれわれ 今日の集まりに向かってのアンケート 地球と人間の関係 地球は有限 誰もがそこに立っている 地球の資源も有限 その中でつつましく生きていくことを考えなくてはいけない 飯田下伊那は交通が不便であるがためにつつましやかな生活が残っている 今それは決してマイナスではなくプラス この地域の魅力になっている リニアの技術 きわどい技術 マイナス270度近い きわどい技術 技術過信を感じる ぜいたくな機関 線路全体をモーターにする 今の地球の中で許されるのか ますます人類の行き詰まりの方向 国が考えればいいことではない それぞれの飯田下伊那、大鹿、各家庭、そういう方向に対してどういう方向かを考える リニア どこかで決まったときに対応を考えればいいという問題ではない 一人の村民としてどう考えるかということとは避けて通れない いい方向ではない たまたまこの地域は一周遅れだけ、いつのまにか周りの変化で先頭 もう1回一周遅れに立たされる 飯田

下伊那にとってもいいことではない ジオパークを提案 南アルプスの地球科学的な魅力 村にとっては土方仕事も重要 仕事はつくっていかなくてはいけないが、何かを持ってくるのではなくて、大鹿の姿を生かして進めていくべき

サイモン 生まれイギリス 昭和 47 年に日本に来た 大鹿に来たのは平成元年 職業は翻訳 インターネットの前の時代 コンピューターとつないで仕事をする 現代に合うような仕事をしながら 自然の中 地域社会の伝統的な暮らし 幸運なことだった 20 年前 早く時間がたつ 大鹿人になった 自治会長を 4 回ぐらいやった 集落をまとめる 役場との交渉 貢献できたことと同時に自分の意見も反映させる 3 年前 今日視察していただいた三正坊で工事が始まった 最初は自治会には何のお知らせもなく始まった うわさだけでリニアに関するボーリング調査 自治会への説明を要求して 3 カ月後 JR の人が来てくれた ボーリングの後、調査トンネルを掘る計画 かなり大きい工事 力関係 集落は何の力もない 賛成しても反対しても聞いてくれない 集会の終わりのところで部長が来週から 24 時間体制で仕事をしたいと 不安な気持ちの中でそうなった 静かなところだから、24 時間機械音が伝わってくると、法律的には何の違法ではないだろうが、釜沢にとっては非常に嫌なもの 問い合わせると返事はするが基本的に秘密主義 なぜ集落の真下で工事をするのか もっと奥の方で 人間の住んでいないところでやってほしいと依頼しても駄目 自分は力なし 知らせもなく始まって、24 時間体制に入って、文句を言っても騒音を測って法律の範囲内だから大丈夫と言われるだけ ボーリングは 12 月に終わった 県の方で調査トンネルの許可が下りなかった 国に 審議会に頼んで 大臣の許可が得られるまで何もしないということになった 審議会が OK といったら、大臣が印を押すとすぐ物事が動いてくる。何も決定していないというが、決定したら取り返しのつかないくらいの速さで工事が始まる 村役場 村議会 こちらの問題を 情報を集めて いろいろな人たちの意見を聴いて 対策をつくってほしいと言っている。もちろん通ってほしくない 釜沢の 500 年の歴史 存続しなくなる 釜沢の住民として この 3 年の間にもっと広く考えるようになって 村の規模、国立公園の規模 信州の自然 政治的な問題 一番願っているものは情報をできるだけ JR には特に 公開してほしい 一人一人の人に自分の問題として考えてほしい 明治大学 後藤そういちろう 山の都 飯田のこと 文化的歴史的な町で山に囲まれている 一つの生活圏 歴史圏 文化圏 大鹿はその中に含まれる これからこの問題に関してお互いによく話し合っていきたい。

前島 工事が始まってから十年間の問題 広域連合での未来構想

井坪 自己紹介を兼ねて 疑問点にも リニアに対する考え方

原(和) 原和世です。情報不足 その中での理解不足 土地柄 人生観 生活感 個人個人が持っている思い リニアの持っている夢 将来像 どのように折り合いをつけていったらいいか 飯田市はこのままいったらどんどん衰退 人口も減っている そこに一つの希望としてリニアがある この地域の未来を子どもたちにどうつなげていけるか 折り合いをつけること 私の住んでいるところは山本 飯田インターのジャンクションができた どう変わっていくかということが試されている 賛成、反対いろいろあった その上に立ってどうしていくかという 一つの橋をつくるにも何回ももめた中で折り合いをつけていった つかみ合いのような経過もあった 今皆さんの持っている疑問点 どんどん率直に言ってもらって納得してもらうことが大事
土砂の話 三遠南信 道路を 時間帯 公団側 道路を造りながら資材を搬入 反対運動のために道路がよくならなかった面もあった 拒むことも大事だが、その中で折り合いをつけることも大事

森本 このようにたくさんの方が関心 松尾に住んでいるが、これほど関心を持って集まってくることは お願いして出てきてくれることがあるが、このような形で皆さんがいらっしゃることは リニアに対して知っていきたいという思いがあって リニアについて理解していない表れと感じた 会派みらいは積極的に取り組んできた それによってどのような形で変わっていくかを見る 土砂 これだけの土砂 実際に見てくることで分かった それを利用して地域が変わる それを利用する方法 使い方 これからの課題 女性の立場 自分の子ども36歳 地域にかかわって地域活動に入っていくときに リニアが通っている時代 どういう形で子どもたちに残していくかということも大きな責任 インフラの問題 基本的には 飯田下伊那の地域は自然が非常に豊かなところ その自然を基本にした形で飯田下伊那を発信 今もあるがそれを有効利用できていない そういうものを主体に変えていくのがいいと思っている 福祉の問題にも取り組んでいるが、福祉的な面から仕手も 皆さんがそうなんだと思えるものを自然の中から生み出していくことがいい 職場がないということ それも含めて、 あそこに行けば安らぎのある下伊那地域 40分でここに来られる 都会で仕事をしながら ここは安らぎの場 リニアをとらえるときにそういうことも考えていきたい 原議員に賛成 リニアはどういうものか きちんとした形で自分の問題にとらえて、こういう問題がある

ということをやっていく必要がある。Cルートと決まったときに勉強会をしたいという声が上がってきている。決定というか、方向性になって始めて自分たちの問題になってきた気がする。遅いが人々が自分たちの問題としてとらえていくことが議員としての仕事

福澤 一昨年議員に リニアの問題 現実の問題になってきた 一番は率直な感想 飯田は時間がかかる 不便 リニアは必要と感じた そんなに甘いものではない ストロー現象、まちが逆に衰退という全国の状況も会派の中で見た リニアが来ても来なくてもまちづくりは 定住圏構想 交通の問題 介護の問題 飯田下伊那が一体となって 市政の中にも生かさせていただきたい リニアが通ればいいという問題ではなくさまざまな課題

井坪 問題は17年先までと、その後と、100年後ということが一番考えなければいけない 私たちは17年後以降を考えている 今日のお話は17年までの不安 これが収穫 私たちは今どこにいるのか どうやって目的地に行くのか 地図 目的地はどこなのか 情報が不足している お互いの意見交換が足りない 広域連合でも地域間 住民間の温度差 17年後以後どこに持っていくか お互いに不安を解消 私も今先頭にいると思う だからこそリニアを契機に何を守っていかなければいけないかということをしっかり考える 定年後にどこに住むかということ 大鹿 飯田と考えてもらいたい リニアが力を発揮 国の将来 どこに行くかというものの地図が

原勉 こういう討論は非常に大事 日本人は下手くそ 全体的に 国の政策 戦争をした新しい時代 21世紀 1億2000万が1億人となる 1% 成人が8分の1 飯田市は3000人、大鹿は14.6%減っている。17%減っている。子どもをつくって増やすという単純なものではない リニアありきの議論になっているかもしれないが 飯田下伊那 外国の人たちを受け入れていかないと日本はリーダーになれない 20年後、1億人、8000万人 日露戦争のとき 20年で2000万人人口が減る 村も飯田市も日本も減る 縮減 コミュニティ JR東海 民間会社が日本のインフラ整備 自分たちの金 つくりやすいところ 採算性が合うところというだけでない 飯田は駅の場所 本田勝一 駅をどこにつくるか 町の中につくって、飯田のまちがしっかりしてくれなくては困るという声があった 開発型は反対 平らなところに大きな駅をつくってそこに新しいまちをつくるというのは反対 尾道 新幹線の駅があるが何もない 福山 町の中に駅をつくった 駅に関しては相当厳しい議論をしていくことになる 名古屋まで20分 大鹿に来る方が遠い ここに来てもらう人をどうつくるか われわ

れが行く方ではなくて、ここに来てもらう人をどうつくるか 悪い部分もあるかもしれないが、よい部分もあるかもしれない

谷川俊太郎 私は幸せです 私が幸せなだけでは世界はよくなる 両面にいわれること 自分の立ち位置 意見の違い どう認め合いながら 向かっていけるか 今日の機会それぞれの立場の人たち これからもつくっていき
たい

前島 地域の中では この村をどう続けていきたいか 広域にわたって視野を広く
持って質問

平瀬 村部 町 財政も厳しい 住みよいという基準はなかなか分かりづらい 環境
問題が心配 お金に価値を見ない 自然に価値を見てこの村に住んでいる 昔
からの人と新しい人と違うかもしれないが 選択を間違わないように進めて
いただきたい 排土 運搬に併せて道路ができる、できないという話 作業道
をつくるために景観を壊してほしくない 一周遅れ ヨセミテ 開発が望まれ
るのか 世界文化遺産の場所であっても大鹿であっても同じ いい自然を求
めてきたのにそれが壊されたら 否定するのではなく 判断の材料としてよ
く考えていただきたい

青木 インターネット リニア 経済効果 いいこともあるし、名古屋の経済が東京
に吸い取られるという人もいっぱいある ストロ現象の話 青森新幹線 新
幹線は北を向いたけど、若者は南を向いた 空室が目立っている 長野新幹線
長野の住民の変動 駅が出ているところ 軽井沢は増えている 事業所数は減
っている 従業員数も減っている 第二の人生 20年の工事の後、80代のとき
に 移り住んできてくれるのか お金を持っていて生活にゆとりのある人が
来てくれれば即戦力になるが 若い人を呼べる地域づくりが必要 尾道は何
もない 飯田がそうになってしまうと心配 昼神温泉が日帰り温泉になる 次回
聞きたい

前島 Iターン お子さん連れ

山根 親として残したい未来 自然の多いところで育つということを 未来の子ど
もたちにも望む 今現在残っている自然 最大限に残してほしい 大鹿の小学
校は立派な校舎 どの教室からも赤石が望める。毎日それを見ながら勉強す
る。誰がいうまでもなく誇りに思っている。校歌の冒頭。赤石に穴が開いて
リニアが通ることが夢になるのか 自然美しい村を

前島 17年間の工事期間の不安 1ターンの人自給率の高い村というところに魅力を感じる人が多い

中野 どういうことが幸せかと考えるときに 自分のことは自分でできる 人にやってもらわなくても自分でできる 地球環境 毎年難しくなってくる 子どもたちが当然 お米を作りたかったら作る そういう環境を残していったあげることが大事と思って生活している

前島 飯田 子どもの絵に表れている

原(勉) 上村 大鹿と上村とは相当意識が違う。三遠南信途中でやめて橋げたが残っている 自然に対する考え方がだいぶ違う 違うことは悪いことではない どのように共有できるか 団塊世代 今の国を変えようと思って学生運動をやってきた 右肩上がりの中で来たのでいいときを走ってきた 今の若い人たちはバブルのいいところを全然経験していない 環境の問題 価値観 みんな迷っている 子育て 大半 いい大学 就職難民が出ているけれども タイムギャップ 全体の世の中、社会を変えていく可能性 リニアの技術的問題、物的問題 工事中 事故なり起こる可能性もある どのように克服 幸せに対する感覚 未来に対する責任 立場を超え、どう議論できるか 皆さんの意見 皆さんからも大きく発信 飯田でも南アルプスに見える 同じ共有できる自然の中にいる 東京にいたけど帰ってきた そういう中で生活したいと思った 共有できるところが必ずあると思う また機会をつくっていただきたい

原(和) 平瀬さん 新たな道路は必要ないという話だったが 地域の不便さをどう思っているか

平瀬 取り付け道路 釜沢に穴があくということで想定 今日の道はダンプが通れるとは思えない 川の景観をつぶしながら道をつくる その景観が失われるのが悲しい 小渋ダム沿いの道 事故の部分をクリアできれば 便利な道ではないが 旅の情緒 あれだけのものを超えてこないと自然は守れない その先に宝物のような光るものがある いろいろな意見はあるが、私の考え方としてはほぼ十分

山根 バスの中で 誤解があった 釜沢で調査をしたところ そこに通ると思っていたけど そうではないと教えていただいた 何も知らない 議論にならない

賛成 反対 分断されたくないなので議論を避けている 村長 働き掛けのできる段階ではない 工事後のことというのも分かっているが 南アルプスは経済効果のために犠牲になってもいいのかどうか 失うものは計り知れない 人間の本当の豊さとは何かということを考えていきたい 古い校舎を再利用して発信の場にできないかというプロジェクト美しい村のトイレを美しくというプロジェクトも春から活動 飯田、中川、松川、豊丘の有志でイベント

個々にならずに広域連合 伊那谷ということで日本や世界に発信できたらいいと思っている